

## 余市町まちづくり協議会の目的と位置づけ

余市町まちづくり協議会は、第4次余市町総合計画の策定にあたり、町民の意見を広く反映させることを目的として、本町のまちづくりに関する協議を行い、余市町総合計画策定作業委員会と連携して作業を行うものとして位置づけられます。

## 余市町まちづくり協議会の開催経過

余市町まちづくり協議会は全部で5回開催され、第2回開催からまちづくりに関するグループ協議が行われました。また最終回となる第5回は、余市町役場職員で構成される余市町総合計画策定作業委員会との合同開催とし、協議会委員の皆さんと本町の職員がこれからのまちづくりについて意見を交わしました。

### 開催日程

開催年月日	日 程	内 容
平成23年 8月18日(木)	第1回 まちづくり協議会	○ 協議会の設立、委嘱状交付 ○ 役員の選任、グループ分け
平成23年 9月 1日(木)	第2回 まちづくり協議会	○ 協議テーマ <b>「多様な資源と人的パワーを活かした 元気なまちづくり」</b>
平成23年 9月 8日(木)	第3回 まちづくり協議会	○ 協議テーマ <b>「住み良く安心して暮らせるまちづくり」</b>
平成23年 9月22日(木)	第4回 まちづくり協議会	○ 協議テーマ <b>「町民と行政の協働によるまちづくり」</b>
平成23年10月12日(水)	第5回 まちづくり協議会	○ 協議テーマ <b>「町民と行政の協働をより進めていく ために」</b> ○ まちづくり協議会を振り返って

※第5回まちづくり協議会は余市町総合計画策定作業委員会との合同開催

# 町長が描くまちづくりのビジョン

町長から協議会委員の皆さんに、以下のとおり説明がありました。

## 計画策定にあたっての時代認識

### ① 地方分権時代

国と地方はいまや対等の関係になっている。職員には国や道の指示を待って仕事をする時代は終わったと伝えている。

### ② 厳しい財政状況

国・地方ともに大変な財政難に直面している。

### ③ 人口減少と少子高齢化

日本全体が人口減少と少子高齢化社会を迎えており、本町も10年後の人口は19,000人程度にまで減少すると見込まれる。

## 新たな総合計画像

### ① 町民と行政との連携でつくる計画

計画策定の段階から町民と連携して取り組む。

### ② 資源を活かす計画

地域にある資源や施設、人材の効率的・効果的活用を図る。

### ③ しっかりとした目標が設定された計画

この総合計画を「絵に描いた餅」で終わらせないようにする。

## 総合計画のテーマ

### ① 住み良く安心して暮らせるまちづくり

### ② 多様な資源と人的パワーを活かした元気なまちづくり

### ③ 町民と行政が連携して歩むまちづくり



## まちづくり協議会のすすめ方

本協議会では、委員の皆さんが日常生活で感じている町全体や地域の現状・課題を再認識した上で、10年後の余市町がどうあるべきか、そのためには町民と行政がどのように協力し、どうやってまちづくりを進めていけばよいかについて話し合いました。

協議会のすすめ方としては、いくつかの班に分かれ、毎回異なるテーマについてワークショップ形式で協議を行いました。

### ワークショップによる話し合いの心得

1. ほかの人の発言をさえぎらないこと
2. ほかの人の発言を批判しないこと
3. ほかの人の意見を尊重すること
4. 全員が平等であること
5. 時間を厳守すること
6. 参加した全員が発言をすること





## ◆主な意見

### <元気なまちとはどんなまちだろう？>

- 子どもたちが安心して暮らし、大人の指導によってではなく子どもたち同士で楽しく安全に遊ぶことができている、町中で子どもたちの声が聞こえる。また、母親が子どもを産み、育てるための環境が整っており、笑顔で暮らすことができる。
- 住民間の交流や相互協力活動が活発で、子どもからお年寄りまで生きがいを持って外に出ることができる。町内に世代ごと・世代をまたいだイベントがあるなど、出会いの場が多く、若者がたくさんいる。
- お祭りや観光客向けのイベントが盛大で商店街がにぎわっており、常に新しい情報が発信されることで、町外から多くの来訪者がある。

### <余市町の多様な資源について>

- 果樹農業や漁業等の産業が盛んで、冷涼な気候、余市川の清流や北限の鮎、シリバ岬に続く海岸線等の自然環境と、フゴッペ洞窟やストーンサークル、運上家等の歴史的文化財がたくさんある。
- おいしい魚、果物をもっと活かすために、官民一体となって加工技術の進歩に取り組み、付加価値をつける商品開発を推進すべき。また、観光客に加工体験をしてもらったり、遊休地を有効活用することで、体験農業やちょっと暮らしの推進を図り、定住人口を増やす必要があるのではないか。
- 毛利衛さん、スポーツ選手等の有名人や、陶芸家等の芸術家、またそれらを支援する町民の方と連携し、余市のPRにつなげていくべき。



## 住み良く安心して暮らせるまちづくり

### 協議テーマ

- ・ いま心配なこと、不安なことは何だろう？
- ・ 心配を「安心」に変えるには、どうしたらよいだろう？



## ◆主な意見

- 豪雪や豪雨、台風等の自然災害に対する対応はどうなっているのか。町民のデータ管理体制や避難道路はどうなっているか町民はまったく知らない。地域ごとの災害委員を設置するなど、災害に対する行政、企業、住民の対応基準を整備した上で、もっとわかりやすい形で町民に周知し、不備があれば訂正を図るべきではないか。
- 余市には常設の産科がないので安心して子どもを産める環境を整備してほしい。病気に対する不安もあるので、医師の移住を推進し、健康ポイントを設けるなど町民の元気なからだづくりに取り組むべき。
- 高齢化やコミュニティの弱体化に伴う老後の一人暮らしや、孤独死に対するお年寄り、障がい者の不安（経済的負担、お互いに相談できる横のつながりが無い）。住民の見守り活動等地域で支えあう体制を築く必要がある。
- 町による地域福祉計画の策定はどうなっているのか。介護施設の増設や空き家や民家を利用したグループホームに対する補助などはできないだろうか。

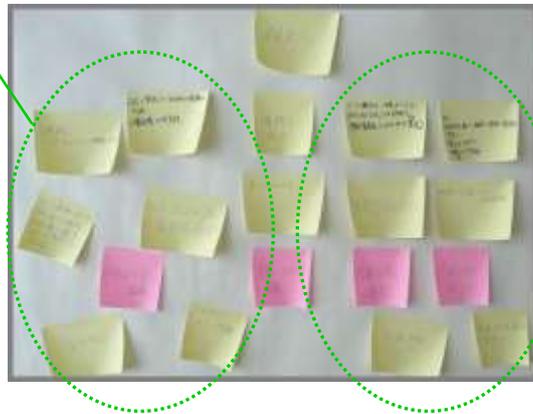


- 地方の衰退に伴う商店街の空き店舗の増加や観光客の減少に対して、官民一体となった取り組みが必要ではないか。空き店舗をコミュニティのオープンカフェ等に利用したり、農漁業や加工を体験できるような観光振興を推進して観光客を増やす取り組みを行うべき。
- 第1次産業の担い手不足の問題や、不景気から働く環境が少ないことによる若者の流出が心配。各産業の増加と6次産業の推進を図るとともに、雇用機会を増やすために企業誘致に取り組むべきではないか。
- 高校の生徒数の減少や、若者の晩婚化に伴う町内の人口減少が心配。スポーツ振興のイベントを増やし、若者のボランティアを募集するなど工夫する必要があるのではないかと。札幌圏に近い強みを活かし、産業の誘致とあわせ移住・定住政策に重点をおいて取り組むべき。まほろばの郷のPR等、小樽～余市間の高速道路開通に向けた官民一体の取り組み。

# 町民と行政の協働によるまちづくり

## 協議テーマ

- ・ 協働ってどんなこと？
- ・ 「行政の役割」と「町民の役割」とは何だろう？



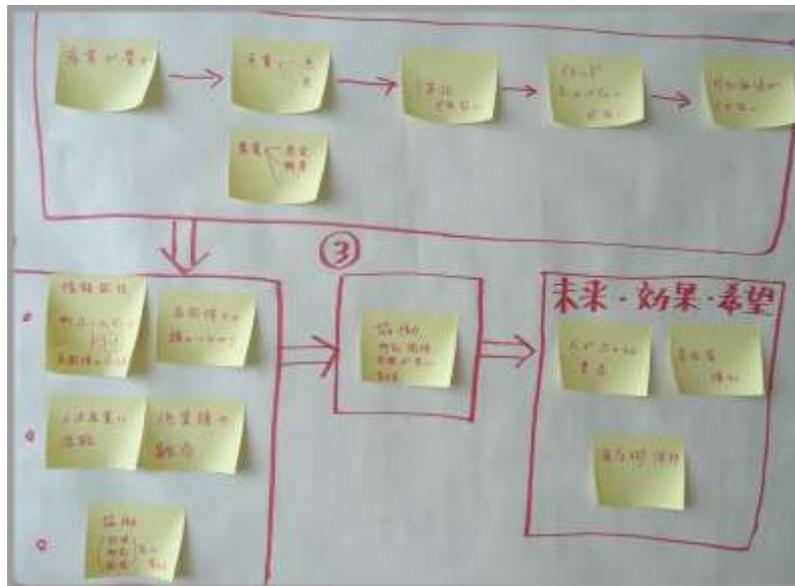
## ◆主な意見

- ごみ袋を町民が購入して、行政が収集するという作業は協働のモデルケースといえるのではないかと。ごみステーション周辺の清掃は町民にもできる。海浜清掃等もボランティアごみ袋をもらって、まとめておいて行政がトラックで取りに来るなど、協力して行うことによって町内の美化につながる。
- 以前下水側溝の清掃を行ったときに、区会で清掃活動を行った数日後に作業車が来て同じところをきれいにしていたことがある。行政と町民の横のつながりが取れていないためにこのようなことが起こるのだと思う。
- 雪かきについては、自分の家の前は自分たちですべき。その上で込み入った住宅街で雪捨て場がない場合に、行政が空き地の所有者に許可をもらって、雪捨て場を確保してもらいたい。雪捨て場があれば、そこに雪を捨てるのは自分たちでできる。
- 町民は自分勝手になんでもやるのではなく、ゆとりを持って地域とのつながりを大事にすべき。「お互いさま、おかげさま」の気持ちを大事にすることはみんなできる。
- 町民がして欲しいことが行政に伝わっていないので、各町内に現役職員を設置してパイプ役を作るなど町民の意見を吸い上げる工夫をして欲しい。行政のニーズも町民に対してうまく伝わっていないので、行政として困っていることは町民にしっかり伝えて欲しいし、そのための協議する場が不足していると思う。
- 町内の公園や遊具の維持管理については、町民も協力してもらえないのではないかと。草取りなどは地域住民に参加してもらおうなど、公園を維持するための町民と行政の役割をはっきりさせて提示すべき。
- ソーラン祭りなどイベントのボランティアスタッフについては、いつも直前になって要請されるので、情報の提供や顔の見える活動の場を作っていくべきだと思う。ボランティア団体の活動の場は、会長の個人宅になっていたりするので、行政の役割としてその環境を整備する必要があるのではないかと。
- たとえば「わがまち余市協議会」をつくって、年齢や職業を問わず募集し、自分たちが望むまちづくりを話し合い、行政に提言書なりを提出し、行政もそれに対して返答するという形をとればよいのではないかと。このような取り組みを定期的に続けていかなければ協働のまちづくりというものはできないと思う。

# 町民と行政の協働をより進めていくために

## 協議テーマ

- ・ 協働による町民と行政の役割と方向性の整理
- ・ 協働によるまちづくりによる目標（姿）



### 公共サービスに関する協働

① 現状と課題

- ・ 除雪 — 積雪の「こぼり」が多い
- ・ 公道の美化 — 歩道の植栽
- ・ ゴミ — コレクション 市町村ごとの条件は異なる
- ・ ままごころクレーム窓口のわかりやすさ
- ・ 要望をどこに伝えたらよいのか
- ・ 回答板によるお知らせ (悪い話)

② 協働による町民と行政の役割

- ・ 情報(困りごと)発信は住民から
- ・ 情報を共有させる仕組みは行政から

③ 協働によるまちづくり目標

- ・ 持続的に意見交換できる場(クレーム、要望、(たいてい、楽しい))
- ・ 情報を共有する場

## ◆主な意見

- 高齢者や障がい者の見守り活動については、住民が意識することによって、孤独死などの解消につながると思うが、普段のご近所づきあいによるものが大きいので、行政が呼びかけをして、積極的に町民にお願いをするなどしてもらいたい。
- 除雪等に関して、行政からマナーの悪いケースについて回覧が回ったことがあるが、そういうことをはっきり言ってもらえると、住民もそれについて考える機会ができると思う。



- 余市町のホームページを活用し、行政と町内の各団体との横のつながりを密にしていくべき。総合計画の策定は10年に1度のものだが、定期的に町民と行政とが意見交換できる場を設け、いま抱えている現状や課題を認識しあうことで、魅力あるまちづくりが出来ると思う。

- 行政は町民に遠慮している、町民は行政がやってくれると思っている、とお互いの意識がずれているために、行政が求めるまちづくりというものが住民に見えて来ないと思うので、行政がまず住民や町内会にしっかり必要なことを伝えるべき。また行政から住民に伝える際には、結果だけではなくてどうしてそうなったのか、プロセスにもしっかり言及してもらいたい。またプロセスの段階から住民に参加してもらうことで、町民と行政の間で情報共有が図られるのではないかな。
- たとえば近所のお年寄りが自分の家の前の除雪をした際に手首をひねって困っているなど、行政はなかなか知ることができないので情報の発信を住民の側からすることも必要だと思う。
- あそこではこういう悪いことが、こちらではこういう良いケースがあるとしっかり話すことが大事で、そのような話し合いを1回で終わらせずに定期的に場を設けることは、非常に有意義なことだと思う。町民と行政の共通目標として、お互いがもっと簡単に、フランクに、かつ持続的に話し合える場がほしい。

